

## バイオセラピー学発展実験・実習 (4単位)

担当者氏名 浅野房代

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

植物を介在させた療法の実践に必要な技術の修得を目的として、植物介在療法学では、園芸療法士としての職能を習得するための実習が必要となる。患者を知り、その患者に合う植物と、その植物とどのような関係を持つかが、最も必要とされるスキルである。認知症高齢者、精神疾患、脳梗塞、障害児を対象として、各施設に出向きプログラムの実施をおこなう。また、授業を通して、植物介在療法に必要とされる園芸全般の知識を身につける。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

植物介在療法          社会復帰          リハビリテーション          作業

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	ガイダンス	認知症高齢者は、統合失調症あるいは脳神経系疾患を患う患者についての理解を深めるための意欲を持つこと。よって、生物学の基本的知識ならびに人の疾患に関する点について予習し、実習を通して得られた内容記録は十分に復習しておくこと。また特に植物介在療法の計画・実施・評価の流れおよび本領域における研究の手法と評価を復習し最終プレゼンに臨むこと。
2	認知症高齢者施設について (認知症高齢者施設演習)	認知症高齢者施設についての理解	
3	認知症高齢者プログラム	プログラムの検討 認知症高齢者へのプログラム提供	
4	" 評価	" 評価	
5	認知症高齢者 まとめ 精神病院 (第 6~9 週)	校内にて症例発表	
6	精神病院を知る	対象者の評価を統計的にまとめ、得られた成果のプレゼンテーションを行う。	
7	評価のまとめ プレゼンテーション		
8	精神疾患 プログラム " 実施		
9	脳梗塞を知る	プログラムの計画	
10	" プログラム検討	プログラムの実施	
11	" 実施	脳梗塞などの脳神経疾患の理解と実際	
12		" プログラムの計画	
13	" 評価	" 実施	
14	脳の障がいを知る	" 評価	
15	とりまとめ	総括	

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

精神医学、作業療法、認知症 などに関係する書籍

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

その都度に紹介する。

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

事前検討、プログラム、実践および評価に関するレポートおよび実習施設の評価を総合して行う。

---

◆オフィスアワー

随時メール等でのアポイントメントの上、研究室で質問等を受け付ける。

---

◆その他受講上の注意事項

本実習は所属する研究室ごとに実施する。

各自の指導教授および担当教員との綿密な打ち合わせを常に行うこと。

実習の実施内容については記録を残すこと。

特異的な実験機器の各種取り扱いに十分留意し、データの解析から得られる情報とその論理展開に至るまでの過程において各測定の目的を常に意識しておくこと。

---